

2016 年度事業計画

2016 年 3 月 28 日

学校法人 金城学院

目 次

はじめに	2
《資料》金城学院中期計画（2015年度～2020年度）	
I 2016年度事業計画の策定にあたって	6
II 金城学院大学	7
1 使命・目的	
2 教育支援	
3 学生の受け入れ	
4 学生生活	
5 キャリア支援	
6 教育・研究環境	
7 国際交流	
8 社会貢献・地域奉仕	
9 管理運営	
10 施設・設備の充実・整備	
III 金城学院高等学校及び金城学院中学校	10
1 キリスト教主義による全人教育の強化	
2 教育・研究の推進と学習支援	
3 地域社会との共生	
4 KMP21（金城学院キャンパスマスタープラン）の推進	
IV 金城学院幼稚園	13
1 キリスト教主義による全人教育の強化	
2 教育・研究の推進と学習支援	
3 地域社会との共生	
4 新入園児の受け入れ	
V 法人部門	15
1 健全経営の維持	
2 地域社会との共生	
3 KMP21（金城学院キャンパスマスタープラン）の推進	
VI 予算概要	17
1 予算編成方針	
2 主な事業別予算	

はじめに

金城学院は、1889年（明治22年）の創立以来、長きにわたってキリスト教主義に基づく女子教育に心血を注いできた。「主を畏れることは知恵の初め（箴言1：7）」を学院モットーに掲げ、現在は、建学の精神に基づく学院全体の教育の柱「福音主義キリスト教による女子教育」「全人的な一貫教育」「国際理解の教育」に従って、大学では「強く、優しく。」を、中学校・高等学校では「自立・自律・連帯」を、幼稚園では「愛され、育ち合う。」を、それぞれ教育スローガンとしている。

本学院は、前述のとおり創立から127年という長き伝統を有している。その伝統とは、本学院の発展を願い、戦前・戦中・戦後の苦難の時代を乗り越え、絶えず改革を進めてきた先人たちの労苦の上に築かれたものである。このことに鑑み、本学院は今後も、変革すべきは変革し、変えてはならないものは変えない姿勢で、今日の教育機関を取り巻く厳しい環境や激しい社会の変化に対応していく。

なお、本学院は建学の精神の深化を基本方針とする「金城学院中期計画（2015年度～2020年度）」（次頁参照）を基に、常に学院全体の組織・機構についての客観的な評価を実施し、法人運営を将来にわたって強固なものにするとともに、将来をしっかりと展望しつつ、教育・研究における質的向上の不断の努力を今後も続けていく。

2016年度は、中期計画の2年目にあたる。については、中期計画課題を中心に、本年度の取り組みを進める。

《資料》金城学院中期計画（2015年度～2020年度）

テーマ／学校区分／中項目	施策
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">Ⅰ キリスト教主義による 全人教育の強化</p>	<p>大学</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生と教職員への建学の精神の徹底 ・キリスト教教育の再構築 ・学内礼拝の励行と教会出席の推奨 ・エラ・ヒューストン記念礼拝堂の活用 ・地域教会との連携強化 ・地域住民へのキリスト教講座の充実
	<p>中学校・高等学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の企画・参加型礼拝の実施 ・近隣教会への出席の奨励 ・キリスト教教育実施体制の再構築 ・教員のキリスト教学校教育同盟研修会への参加の奨励 ・宗教主事の果たすべき役割の見直し ・キリスト教学校教育同盟との連携による「道徳の教科化」への対応 ・地域を中心としたボランティア活動への参加の奨励
	<p>幼稚園</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建学の精神に基づくキリスト教教育の意識強化と教育スローガンの実践 ・礼拝と祈りと奉仕の実践 ・近隣教会への出席の推奨 ・礼拝を通し「主の祈り、聖句、聖話、讃美歌」を幼児の心に刻むこと
	<p>法人（学院全体）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キリスト教関係諸行事の充実と地域教会との関係強化（礼拝の魅力化と学生・生徒・園児に対する伝道の強化） ・教会関係施設の地域への開放 ・歴史館の設置（金城学院アーカイブズの整理集約・保管・展示） ・キリスト教音楽活動の活性化

教育・研究の推進と学習支援	大学 教育・研究上の改革	<ul style="list-style-type: none"> ・初年次教育の充実 ・社会から求められる教養教育の実現 ・国際理解教育の更なる推進 ・高度職業人の育成 ・教育課程の体系化 ・実質的な学修時間の確保 ・学生の主体的・能動的学びの実現 ・ディプロマポリシーとカリキュラムポリシーに基づく教育の実現 ・国家試験合格率の向上 ・研究成果の可視化と教育への還元 ・科学研究費などの申請件数、採択件数の拡大
	学生支援の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・アドバイザー制の充実 ・キャリア開発・就職支援の推進 ・学生マナーの向上 ・クラブ・サークル活動の活性化 ・学生相談体制の充実 ・学生ボランティア活動の促進 ・「K-カルテ」「K-PORT」による学生支援の充実 ・防災体制の整備 ・共通教育運営体制の充実
	教学マネジメント体制の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・FD 活動及びSD 活動の推進 ・自己点検・自己評価制度の更なる拡充
	中学校・高等学校 教育力の向上（探究力育成）	<ul style="list-style-type: none"> ・“Dignity”の充実 ・英語と社会の合科“World Studies”の充実 ・GDM（英語による英語教授法）を使った授業改善 ・ESD（持続可能な発展のための教育）導入の検討 ・多様な語学研修プログラムの推進 ・中高大教育連携の更なる推進
生徒支援の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・「自立・自律・連帯」精神の育成と高揚 ・中高連携した進路指導體制の整備・充実 ・生徒相談に関するケースカンファレンスの定期的な実施 ・校舎建替え期間中の中高相互協力による良好な教育環境の確保 	
教学マネジメント体制の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・入試研究部における入試改善の研究 ・カリキュラム研究部における探究力育成の研究 ・教師力向上のための研修会の実施 ・教育評価制度の導入と施行 	

Ⅱ 教育・研究の推進と学習支援	幼稚園 魅力ある教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 自由活動とリンクした学年別活動・クラス活動の充実 縦割り（異年齢）保育の充実 保護者と教員との連携強化 保護者参加行事の見直し
	環境の整備と子育て支援 中高大との交流と教員の連携	<ul style="list-style-type: none"> 魅力ある園庭作りと、主体的な遊びを促す環境の整備 幼稚園周辺の豊かな自然の有効利用、保全、美化 預かり保育の拡充 未就園児保育「プレ幼稚園」の拡充 学生、生徒、園児の交流 教員相互の交流・連携
	法人（学院全体）	<ul style="list-style-type: none"> 修学及び成長意欲の喚起を促す奨学金制度の見直し
Ⅲ 健全経営の維持	組織力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 人事評価制度の見直し 管理職の育成 内部統制が有効に機能したガバナンスの確立 業務プロセスの見直しによる業務の効率化 危機管理体制の強化 教職員の意識向上によるリスクマネジメントの強化 内部監査制度の定着
	財務体質の強化	<ul style="list-style-type: none"> 各事業の費用対効果の検証 よりの確な意思決定ができる予算制度への改善 財務指標に裏付けられた健全経営の維持 財源多様化による収入基盤の強化
	広報の充実	<ul style="list-style-type: none"> 戦略的広報活動の推進 積極的な情報公開の推進
Ⅳ 地域社会との共生	大学	<ul style="list-style-type: none"> 環境共生モデル地区の維持と活用 「大学コンソーシアムせと」への積極的参加 KIDS（Kinjo Infant Development Support）センターの設置と運営 企業との積極的な連携 生涯教育、社会人教育、リカレント教育の充実
	中学校・高等学校 キャンパスの地域への開放 地域奉仕活動への参画	<ul style="list-style-type: none"> 東区主催「文化のみち」などでの施設・設備の開放と活用機会の提供 施設・設備の利用法の見直し 東区主催「文化のみち」への積極的参画と奉仕活動 社会福祉関係施設・保育関係施設での奉仕活動 病院・刑務所・福祉施設等への慰問 音楽系クラブによる演奏奉仕
	幼稚園	<ul style="list-style-type: none"> 大学との連携による子育て支援プログラムの推進 園児と地域の小学校・保育園との交流活動の実施 園児と地域の高齢者との触れ合い交流活動の実施
	法人（学院全体）	<ul style="list-style-type: none"> 歩道整備による地域住民及び学生の安全の確保

< K M P 21 の推進	大学	<ul style="list-style-type: none"> ・大学では、3期（1期…N1、N2 棟及び礼拝堂の建築及び周辺整備、2期…W3 棟建築及び周辺整備、3期…E1、E2 棟建築及び周辺整備）に分けて整備計画を進めることにしている。 ・第1期は予定通り 2014 年度に終了した。 ・第2期(W3 棟建築及び周辺整備)は、2014 年度から実施しているが、これを計画通り 2015 年度中に完了させる。 ・第3期(E1、E2 棟建築及び周辺整備)については、2020 年度からの実施を計画しているが、それに向けた検討を行う。
	高等学校	<ul style="list-style-type: none"> ・高等学校では、2013 年度に世光館を竣工した。 ・2014 年度から地塩館の建て替えを実施しているが、これを計画通り 2015 年度中に竣工させる。 ・地塩館の竣工とともに栄光館を改修する。
	中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校では、高校の改築にともない設置した仮設校舎を引き続き利用し、2016 年度から恵愛館、友愛館、信愛館の改築を実施し、2017 年度中に竣工させる。
VI 金城学院創立 130 周年・大学設立 70 周年記念事業の立案と実施	<ul style="list-style-type: none"> ・130 周年記念事業についての立案と実行 ・130 周年記念寄付金の募集 ・みどり野会（金城学院同窓会）との連携強化 ・金城学院資料室の整備 	

I 2016 年度事業計画の策定にあたって

少子高齢化の進行、学校間競争の激化など、私学を取り巻く環境は大変厳しいものがあり、社会のニーズもますます多様化してきている。金城学院は、そうした様々な社会の変化とその要請に対して迅速かつ適切に対応できるよう、2016 年度も大学から幼稚園に至る各学校において、様々な教育制度の改革や経営の改革を推し進める。

大学では、キリスト教主義教育の強化と学生・教職員に対する建学の精神の徹底を主軸とし、引き続き社会の期待に応えるべく教育・研究の推進と学生支援の充実、地域社会との共生を推し進める。中期計画の2年目にあたる 2016 年度は計画の具体化と着実な年次進行を旨とし、改善・改革サイクルの構築を目指していく。

高等学校及び中学校では、思考力を育成するための教育プログラムとその評価への転換を昨年作り上げた新しい教育観をベースにして、より一層推進する。そのためには育成すべき資質・能力の観点からその構造、目標や内容を見直すとともに、課題の発見と解決に向けた主体的・協同的な学習・指導方法であるアクティブラーニングの充実を図る。十分な知識を使いこなす思考力・判断力・表現力を育成するために指導法を、受け身でなく主体的・協同的に学ぶことを促す方法へと進化させる。夢や目標を実現するた

めに「どのような力を身に付けるか」の観点に立って指導内容や学習方法を明確にしていく。

幼稚園では、これまで通常保育の充実はもとより、子育て支援ならびに入園希望者拡大策として預かり保育や2歳児プレ幼稚園を拡充させてきた。しかし、少子化に伴う園児数減少や母親の就労に伴う保育園志向を踏まえ、2016年度は募集活動を一段と強化し、更には満3歳児保育に関する検討を行っていく。

法人部門では、2012年度から開始したKMP21（金城学院キャンパスマスタープラン）に基づく設置各学校の教育環境リニューアル計画を推し進めるとともに、2013年度から始めた内部監査制度を定着させる。また、財務基盤の強化と人材の育成をさらに進める。

なお、KMP21においては、2015年度は大学では新W3棟を、高等学校では栄光館の改修工事と新地塩館を竣工させた。2016年度はこれに続き、中学校で信愛館・恵愛館の建替え工事を開始する予定である。

II 金城学院大学

大学を取り巻く状況は厳しさを増しつつあるが、大学においては、「強く、優しく。」を教育スローガンに掲げ、知的に鍛えた強さと優しさを兼ね備えた品格ある女性の育成を目指す。

具体的には、学院中期計画（2015年度～2020年度）に基づき、以下の事業を計画し、遂行する。

1 使命・目的

(1) キリスト教主義教育とキリスト教活動の魅力化

建学の精神を学び、理解するために、キリスト教教育の充実を図り、特に学生達が自主的に礼拝に参加するよう指導に努める。また、学生が礼拝に親しみを持つよう、讃美歌を歌う機会を増やす方策を検討する。

(2) 建学の精神の確認

新入生には入学時のオリエンテーションにおいて「金城学院大学ものがたり」などを活用し丁寧に建学の精神を説明する。また、学生が繰り返し建学の精神を学べるよう具体的な方策を検討する。

2 教育支援

(1) 新共通教育カリキュラム策定に向けての検討

2016年度は共通教育カリキュラムを変更してから2年目にあたるため、共通教育委員会において問題点や改善すべき項目の洗い出しを行い、カリキュラム策定に向けた作業がスムーズに行えるよう環境整備を行う。

(2) 単位の実質化に向けた、授業外学習の量的・質的向上策の検討

2015年度に実施した「学習と学生生活アンケート」結果によれば授業外学習時間が着実に増えてきているが、この流れを促進するとともに授業外学習の質的向上を目指すための方策を検討する。

3 学生の受け入れ

(1) 適正な総入学者数の確保

本学の「入試3か年計画（2017年度入試～2019年度入試）」に沿い、適正な総入学者数の確保を目指す。

(2) 一般入試、大学入試センター試験利用入試等の入試方式の検討

高い基礎学力をもった入学者の獲得を目的とし、一般入試、大学入試センター試験利用入試等の入試方式の見直しを行う。

4 学生生活

(1) 学生相談室体制の整備

学生相談室運営委員会を中心とした相談学生への組織的サポート体制をより充実させるとともに、特に「こころ」に問題や障害を有する学生に対する支援の方策を検討する。

(2) 「K-カルテ」運用の充実

K-カルテの安全性・利便性を引き続き検討する。K-カルテを含む各種ネットワークのより有効な構成、利用法についても検討する。

(3) 教職員、学生組織と協同した学生生活の充実

教職員のサポートを得て、学生会、サークル協議会と協同し、学生生活の充実を図ることを目的としたイベント等を計画、実施する。

5 キャリア支援

(1) 就職試験対策の強化

2016年度に就職活動が短期化されることに対応するため、業界・企業研究、筆記試験対策、面接対策の3点で強化を図る。

(2) 就職活動学生の学内活動促進

就職状況の好転とともに下がりつつある就職行事の参加率や、採用スケジュールの変更により減りつつある就活ラウンジの利用者数を増やすための取組みを実施する。

6 教育・研究環境

(1) 本学における教員像の明確化

これまでに話し合った学科の教員像をもとに、学部・研究科の3つのポリシー

に対応した「求める教員像」を再検討し、明文化に取り組む。

(2) 学生の主体的・能動的学びの実現に向けた FD 交流集会の実施

学生の主体的・能動的学びを実現させるためには、まず学生のことを知り、他大学を含めた現状を把握し、教員全体で情報を共有することが必要である。2016年度は 2015 年度に行われた「学習と学生生活アンケート」（3年に1度実施）結果を共有する FD 交流集会を実施する。

(3) 学内研究者に対する研究倫理教育受講方法の検討と実施

これまでの取組みに続き、2016年度は eラーニングなど種々の受講方法を検討し、責任ある研究に欠かせない知識・スキルを定着させると同時に定期的に必要な情報を伝達していけるようなシステム構築に取り組む。また、すべての学内研究者が受講できるよう配慮して実施する。

7 国際交流

(1) 学生の多様なニーズを満たす留学プログラムの検討

他大学等で実施されている様々な留学プログラムについて情報収集をおこない、学内関連学部・学科と情報共有するとともに、新たな留学プログラムを検討する。

(2) 国際交流センターが担当する共通教育科目（3科目）の改善

2015年度新規開講の「留学準備講座」「Topics in Comparative Culture」「Topics in Contemporary Japan」の履修者が少数に留まったため、留学説明会や国際交流イベント等の機会を通じ、学生に授業の魅力を積極的に紹介する。また当該授業の担当教員や学生にヒアリングを実施し、授業内容や運用面の改善にも努める。

8 社会貢献・地域奉仕

(1) 地域社会との連携

守山区との連携を推進するとともに名古屋市、瀬戸市、尾張旭市との連携を検討する。また、継続して地域の自治会等と話し合いを進める。

(2) KIDS センターの運営

KIDS センターが地域貢献の場として有効に機能するようイベント等を企画・実施する。

(3) 八竜地区の活用

八竜地区が地域にとっても貴重な財産であることを学内外に広く周知徹底し、環境教育に資するための活用を促す。

(4) ファッション工房の運営

ファッション工房がこれまで取り組んできた社会貢献事業を検証し、工房が W3 棟に移ることによる新たな活動のあり方を検討する。

9 管理運営

(1) 危機管理体制の整備

緊急時の対応、連絡体制、不測の事態を未然防止するための方策を検討する。

KMP21 第2フェーズの完了にともなう安全対策と避難体制を検討するとともに防災管理委員会と連携し、「災害対策マニュアル」の見直しを進める。

また、受入れ留学生の危機管理について、迅速で的確に対応できる体制を整え、「災害対策マニュアル」に反映させる。

(2) 実務助手との協働

KMP21 第2フェーズ完了にともない事務室の移動があり2学部の事務室が同一の場所となるが、業務がスムーズに行えるよう実務助手と事務職員が連携して対応する方策を検討する。

(3) 事務職員の人材育成

事務職員の研修制度を検証するとともに新たな資質向上策について検討する。

10 施設・設備の充実・整備

竣工した W3 棟及びセンターコート全体を学生が有効利用できるよう十分に配慮するとともに、学生の移動経路が変更となることに伴う安全対策を検討する。

Ⅲ 金城学院高等学校及び金城学院中学校

建学の精神に基づき、「確かな学力」育成に呼応した新しい教育観を全教員で共有する。思考力を育成するための教育プログラムや評価に関しては、“Dignity”を軸として、より一層推進し各教科のカリキュラムもそれに対応するものに変えていく。教員の学習観や授業観の大転換を図るためアクティブ・ラーニングおよびその評価についての研修を行い、育成すべき思考力・判断力・表現力を育成するとともに、生徒が受け身でなく主体的・協働的に学ぶことができるように促す方法へと学習方法を進化させる。

従って、2016年度は、「確かな学力」を育むためアクティブ・ラーニング推進と評価の検討を進めつつ、Dignityを有する「自立・自律・連帯」できるピースメーカーの育成を目指し、次のように事業を進める。

1 キリスト教主義による全人教育の強化

以下の施策を中心に、キリスト教主義による全人教育の取り組みを推し進める。

① 生徒の企画・参加型礼拝の実施

伝道週間や特別礼拝などを、宗教常任委員会、宗教委員会を中心に、生徒によって企画を立てて行い、生徒の参加を促していく。

② 近隣教会への出席の奨励

教会出席奨励日があるが、1年を通して、担任や授業担当者（聖書科を中心に）の協力を得て、教会への出席を促す。

③ キリスト教教育実施体制の再構築

これまでの中高の一貫教育としてのキリスト教教育を見直し、「礼拝、行事、聖書科授業」のさらなる連続性を構築していく。

④ 教員のキリスト教学校教育同盟研修会への参加の奨励

キリスト教学校教育同盟の研修会への参加を促す。さらに、それぞれの年代からの代表が参加していけるようにする。

⑤ 宗教主事の果たすべき役割の見直し

キリスト教教育全般をつかさどる各校の宗教主事が、学院主事会の責任のもとでそれぞれの役割を担い、ますます中高大の連携を強化していく。

⑥ キリスト教学校教育同盟との連携による「道徳の教科化」への対応

中高における道徳という教科の位置付けを学院主事会で言い、これから学内で行わなければならないことを決定していく。

⑦ 地域を中心としたボランティア活動への参加の奨励

課外活動としてのボランティアの形を整え、他者に感謝して仕えることで社会に参与できる生徒を養い育てる。

2 教育・研究の推進と学習支援

(1) 教育力の向上（探究力育成）

生徒の情報を中高で共有し、学習指導の連携をより一層滑らかにすることで学習効果をより一層引き出すとともに、以下の施策を中心に教育力の向上を図る。また特には、高校では新教育課程の完成年度であるので、今年度より実施に移される3年生の新カリキュラムでの授業を円滑に実施する。

① ”Dignity”の充実

② 英語と社会の合科”World Studies”の充実

③ GDM（英語による英語教授法）を使った授業改善

④ ESD（持続可能な発展のための教育）導入の検討

⑤ 多様な語学研修プログラムの推進

2014年12月の中教審答申及び「めざす人間像」を考慮した中高の語学研修を組み立て直す。

⑥ 中高大教育連携の更なる推進

(2) 生徒支援の充実

生徒一人ひとりがより充実した学生生活を送ることができるよう、次の施策を中心に生徒支援の充実を図る。

① 「自立・自律・連帯」精神の育成と高揚

② 中高連携した進路指導体制の整備・充実

- ・進路指導についても、単なる知識・技能の習得度に基づく指導を行うのではなく、多面的・総合的な評価に基づき、生徒一人ひとりの将来目標の実現を支援する観点に転換する。
 - ・大学入試制度の変更について、進路指導課として情報収集し早目の準備やその対応方法などを提案していく。
- ③ 生徒相談に関するケースカンファレンスの定期的な実施
- ④ 校舎建替え期間中の中高相互協力による良好な教育環境の確保
- (3) 教学マネジメント体制の強化
- 2015年度に引き続き、次の施策を推し進める。
- ① 入試研究部における入試改善の研究
- ・入試研究部を中心として、思考力を測定するような記述式試験、および英語試験の中学入試への導入
 - ・塾などの主催する入試研究会への参加、入試情報誌の閲覧、研究部内での勉強会の実施など
- ② カリキュラム研究部における探究力育成の研究
- ・教育のグランドデザインの設計支援
 - ・思考力・判断力・表現力を育成する授業の開発、及びアクティブ・ラーニングの実施
 - ・教育課程表の形式の改善
 - ・21世紀型学力の研究開発
 - ・政府が推進する高等学校教育・大学教育・高大接続の一体改革の動向の把握
- ③ 教師力向上のための研修会の実施
- ・主体的学習者を育てるための授業改善に役立つ研修会を実施する。
- ④ 教育評価制度の導入と施行
- ・カリキュラム研究部を中心に新たな評価方法の研究・開発を行い、生徒の多様な学習成果や活動を評価する方法に転換する。
 - ・調査書及び指導要録の様式等についても新たな中学校・高等学校の在り方を踏まえ、生徒の多様な学習成果や活動が反映されたものになるように改定する。

3 地域社会との共生

(1) キャンパスの地域への開放

次の施策を中心に、キャンパスの地域への開放を一層拡大する。

- ① 東区主催「文化のみち」などでの施設・設備の開放と活用機会の提供
- ② 施設・設備の利用法の見直し

(2) 地域奉仕活動への参画

以下の施策を中心に、地域奉仕活動への積極的な参画を推奨し拡大させる。

- ① 東区主催「文化のみち」への積極的参画と奉仕活動

- ② 社会福祉関係施設・保育関係施設での奉仕活動
- ③ 病院・刑務所・福祉施設等への慰問
- ④ 音楽系クラブによる演奏奉仕

4 KMP21（金城学院キャンパスマスタープラン）の推進

2016年度からKMP21に基づき中学校では仮設校舎に移転し教育活動を開始する。それと同時に、恵愛館と信愛館の解体工事及び新築工事を生徒の安全を第一に2017年度にかけて進める。教育活動はなるべく中高の授業時間割を調整し、活動場所は、高校が世光館と地塩館、中学が仮設校舎と希望館というようにゾーン分けを原則として実施する。

IV 金城学院幼稚園

「子ども・子育て支援新制度」が2015年度から施行され、幼稚園、保育園のあり方が地方自治体の取り組み方により導入が左右されている。

本園は創設の理念を大切にされた教育方針に基づく幼稚園教育を推進し、当面は現行の幼稚園として歩む選択をした。しかし、本園が更なる質の高い保育を目指しつつ、地域の子育てに貢献する幼稚園であるためには、常に新制度をどのように取り入れていくべきかの検討を怠らず、引き続き子育て世代のニーズに即した取り組みを柔軟に取り入れ、恵まれた環境のもとでの魅力ある幼稚園を目指して2016年度の教育事業を以下のように進めるものとする。

1 キリスト教主義による全人教育の実践

① 建学の精神に基づくキリスト教教育の意識強化と教育スローガンの実践

キリスト教保育連盟の2016年度主題聖句「実に、キリストはわたしたちの平和であります。（エフェソの信徒への手紙2章14節）」と年度主題「平和をともに」に基づき、教育スローガン「愛され、育ち合う。」を実践する。具体的には、以下の施策を推し進める。

② 礼拝と祈りと奉仕の実践

全園児合同礼拝、クラス礼拝の充実を図る。また年長児によるクリスマスキャロリング、ハンドベル演奏などを通し、地域での奉仕を実践する。また礼拝を通し「主の祈り、聖句、聖話、讃美歌」を幼児の心に刻むことに努める。

③ 近隣教会への出席の推奨

教会出席のきっかけ作りとして、夏休みなどの長期休暇に教員が交代で子どもたちと共に地域の教会へ出席をする。また、クリスチャン保護者の通う教会案内を掲示し、親子での教会出席を奨める。

2 教育・研究の推進と学習支援

(1) 魅力ある教育の推進

教育課程を基に、異年齢保育の中で各学年の特質を踏まえた質の高い保育を遂行するため、具体的には、以下の施策を推し進める。

① 自由活動とリンクした学年別活動・クラス活動の充実

自由活動と学年別活動・クラス活動をリンクさせながら、一貫性を持たせた保育の充実に取り組む。

② 保護者と教員との連携強化

保護者と教員との懇談や保護者の保育参加を通し、園児の相応しい成長のための連携強化を図る。

③ 教員の研修

- ・各種幼児教育の研修や公開保育の積極的な参加を推奨する。
- ・キリスト教保育連盟主催の研修への全員参加を推奨する。
- ・園内研修を随時行い、更なる保育の充実に努める。

(2) 環境の整備と子育て支援

恵まれた自然環境の有効利用と、在園児保護者や未就園児保護者への子育て支援の充実を図るために、具体的には、以下の施策を推し進める。

① 魅力ある園庭作りと、主体的な遊びを促す環境の整備

魅力ある園庭、主体的な遊びを促す環境整備に努める。また同時に、遊具や設備の安全点検を定期的に行う。

② 預かり保育の拡充

通常保育後の教育活動としての預かり保育のニーズはますます高まり、更なる子育て支援としての充実に努める。

③ 未就園児保育「プレ幼稚園」の拡充

2歳児プレ幼稚園、入園前プレ幼稚園の充実拡充に努める。

(3) 中高大との交流と教員の連携

学院関係および地域の学校との連携を強化するために、具体的には、以下の施策を推し進める。

① 学生、生徒、園児の交流

② 教員相互の交流・連携

3 地域社会との共生

大学、小学校、保育園、高齢者など地域の関係施設との共生を図るため、具体的には、以下の施策を推し進める。

① 大学との連携による子育て支援プログラムの推進

KIDSセンターとの連携により、相互の活動が地域の子育て支援に生かされるよ

うに進める。

② 園児と地域の小学校・保育園との交流活動の実施

保育園児を招き、一緒に遊ぶなど年長児を中心に計画していく。また例年3学期に、地域の小学校を訪問し、一日体験を行っている。2016年度も引き続き訪問依頼をしていきたい。

③ 園児と地域の高齢者との触れ合い交流活動の実施

ハンドベルコンサートに近隣のお年寄りを招くなどの計画を通して交流を深めいつも見守って下さる地域のお年寄りへの感謝を表す。

4 新入園児の受け入れ

(1) 入園願書配布のための取り組み強化

少子化による新入園児減少の対策として、具体的には、以下の施策を推し進める。

① 幼稚園体験と説明会の充実

幼稚園体験と説明会の内容、方法を更に魅力的なものとして計画する。

② 募集力強化

広報活動の工夫や地域の父母との結びつきを強めるなど、募集力を強化する。

(2) 幼稚園広報の充実

幼稚園体験と説明会参加者アンケートから、幼稚園探しに最も有効な手段がホームページであるという結果を受け、幼稚園ホームページを更に分かりやすく魅力あるものにするよう努める。

(3) 満3歳児保育の検討

近年、未就園児保育に対するニーズがますます高まってきている。募集力強化の可能性も高く、満3歳児保育についての検討を進める。

V 法人部門

金城学院大学、金城学院高等学校、金城学院中学校及び金城学院幼稚園が行う様々な事業を、円滑かつ健全に運営するために法人部門が担う役割は極めて重要である。変化が激しい社会環境や多様化するニーズに応えることができる学校法人であるために、絶え間ない組織・経営改革を推進することを、法人部門は求められているからである。

このような認識と使命の下、学校法人金城学院の中期計画に基づく法人部門の2016年度事業計画としては、次の3点を掲げてその取り組みを進める。

1 健全経営の維持

(1) 組織力の向上

18歳人口が踊り場にある今、学院を取り巻く経営環境は、依然として生き残りを賭けた激しい競争が続くと予測される。この難局を乗り越え、更には2018年度以降の減少期に備える健全経営体制を確立するためには、組織力の向上が重要な課題である。その具体的な施策として以下を推し進める。

① 人事評価制度の見直し

目標管理制度による人事考課を取り入れ、一人ひとりを正當に評価するしくみを構築する。また、教員の人事評価制度の在り方やその是非に関しても検討を開始する。

(2) 財務体質の強化

財務体質を強化するためには、財源を多様化し収入基盤をより強化していく必要がある。その具体的な施策として以下を推し進める。

① 財源多様化による収入基盤の強化

特に「寄附金」についてより充実・拡大させていく。130周年記念寄附金募集につながる積極的な寄附金募集企画を検討する。

(3) 広報の充実

健全経営を維持するためには、教育・研究活動を通じて構築されたブランド力を、タイムリーな広報活動によりアピールし、競争力をより向上させる必要がある。また、情報公開をさらに積極的に行い、公正・透明な経営を維持する必要がある。その具体的な施策として以下を推し進める。

① 積極的な情報公開の推進

- ・本学の教育・研究活動状況を積極的に公開する。
- ・情報公開すべき事項を検討し、公開する。

2 地域社会との共生

① 歩道整備による地域住民及び学生の安全の確保

八劔神社との土地交換に基づく歩道拡幅計画は順調に進められているが、工事期間中の安全確保はもとより、完成後においても安全な通行が確保できるよう、街灯設置等の必要な措置を講じる。

3 KMP21（金城学院キャンパスマスタープラン）の推進

より良い教育を推進するためには、教育環境が重要な役割を果たす。そこで、施設の整備は勿論のこと、キャンパス全体の見直しを行い、安全で使い易く、自然等に配慮した環境を整備する。本学院では、金城学院キャンパスマスタープラン（KMP21）を作成し、2012年度から整備を開始しているが、この計画に基づき継続して整備を推進する。その具体的な施策として以下を推し進める。

① 中学校校舎の改築

中学校は、高校の改築にともない設置した仮設校舎を引き続き利用し、2016年

度から恵愛館・信愛館の改築及び友愛館の改修を実施し、2017年度中に竣工させる。

VI 予算概要

1 予算編成方針

2016年度予算編成は、2015年度に策定した6ヵ年にわたる中期計画（2015年度～2020年度）の2年目であることを踏まえ、政策全体を見渡し、引き続き計画実現の礎を築くものとする。

具体的には、以下の編成方針に基づき、必要かつ妥当と判断された計画の採択を原則とする。

(1) 収入関連

学生生徒納付金収入は、各校とも対入学者定員100%、退学・休学想定率2%とする。補助金収入は、前年度実績の90%もしくは最低補償額を見込む。その他の収入等は、不確定な要素があるので、例年通り織り込まない。

(2) 支出関連

健全財政の確保を目的として、2016年度の継続経費は、「2015年度規模に対するゼロシーリング」を目指す。また、2015年度に引き続き、防災対策強化、環境配慮などの政策的予算への積極的な再配分を目指す。設備更新関連は、緊急性、有効性などを十分検討し予算化する。

(3) 保有資金

KMP21（金城学院キャンパスマスタープラン）に関連する収支を除いた予算で、2016年度において保有資金の増額10億円以上を目指す。

2 主な事業別予算

予算編成方針に基づき、2016年度の主な事業に対する予算を次のとおり計画した。

(単位：千円)

分類	事業内容	予算額
KMP21 関連事業	(大学) ・ 既存校舎解体工事 ・ 西側校地外構整備工事 など	2,533,000
	(中学校) ・ 新校舎建設工事 ・ 講堂及び友愛館改修工事 など	
防災対策 強化事業	(法人) ・ 仮想統合サーバ更新	100,000
	(大学) ・ 既存校舎緊急電話設置工事 など	
	(中学校) ・ 講堂天井耐震工事	
教育設備 充実事業	(大学) ・ PC支援語学学習システム更新 ・ 図書館学生自習用端末整備 ・ ラーニングコモンズ(学習支援室)PC整備 など	85,000
	(高等学校) ・ 地塩館AV教室ノートパソコン一式購入	
修繕事業	(大学) ・ W1棟設備・機器年次改修 など	61,000
	(幼稚園) ・ 保育室空調増設工事 ・ 園庭アスレチック遊具補修工事	
広報事業	・ 新聞広告掲載 ・ 鉄道額面ポスター掲出 など	70,000
その他	・ 緊急特別就職支援策 など	55,000
合計		2,904,000

